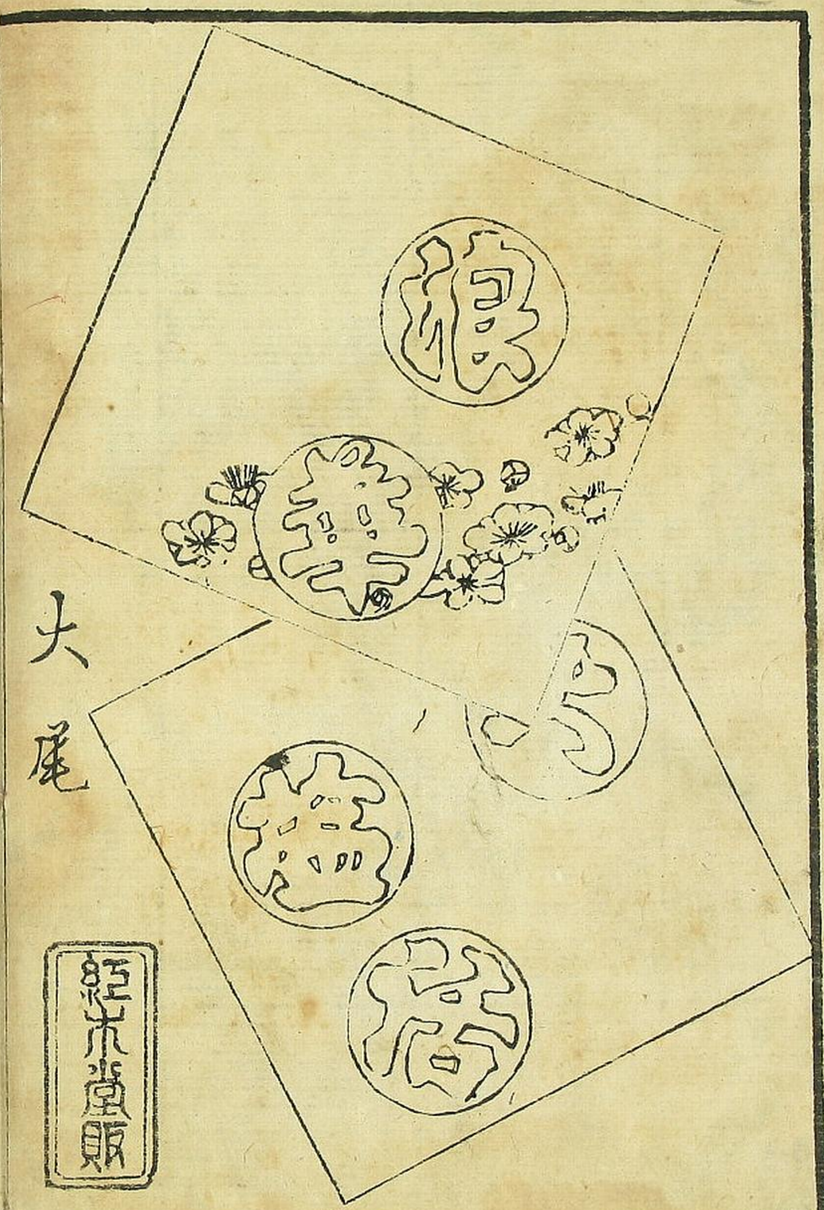
鶴田真容編輯
浪華の楳
大塩話
二編下
木宗梓
分部周重著

010190510951
A 467
4 上



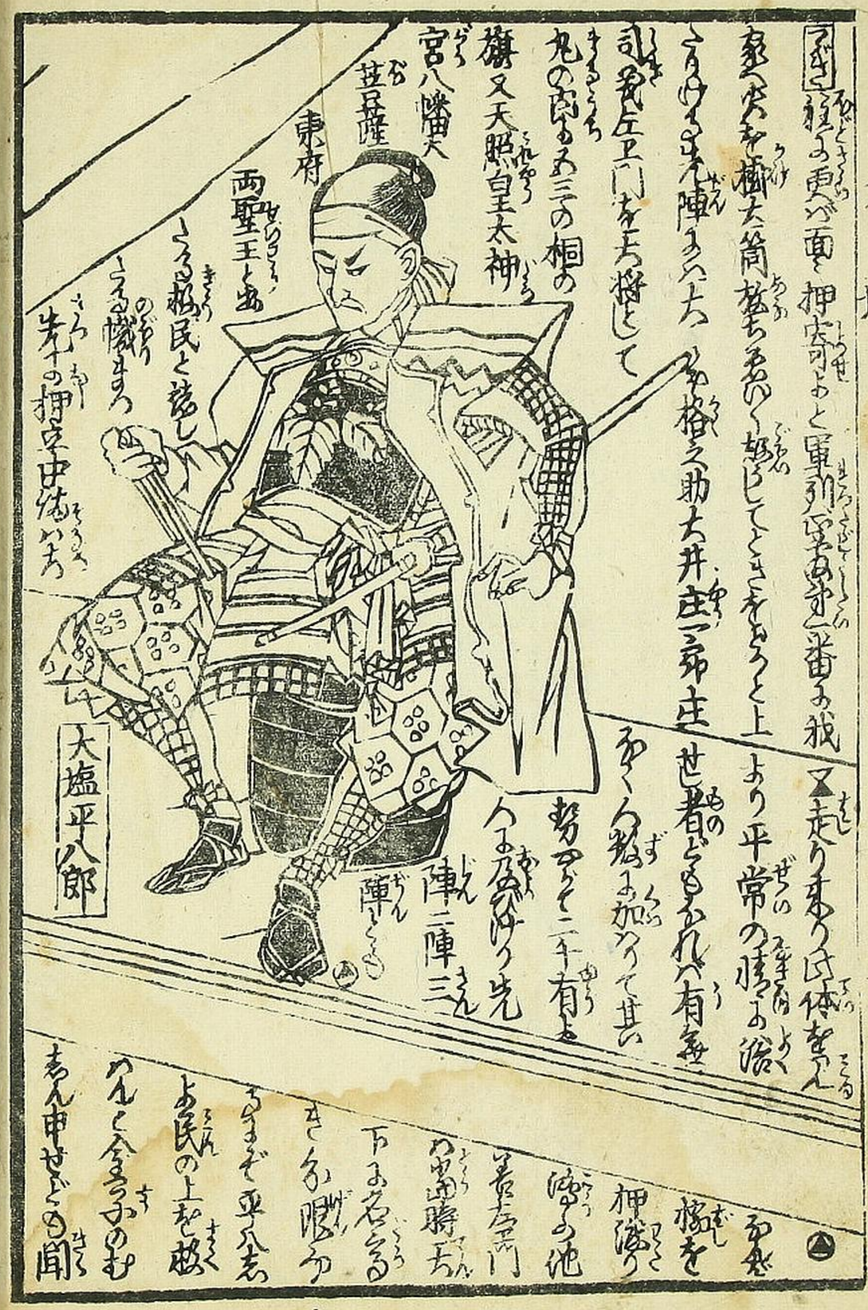
48-8733

二編上巻 奉行所の捕ひ行屆き難き者へ右米金を取扱ひ申時日を延ばせば
大坂市中の騒動起りぬ傳聞有て
鎮知いず奉
天命致天誅
と記し神社佛
閣へ下置より
巻の平八郎門
牧味の内の平
山助次郎とも
者まじ伝
るを考ずる
の今天下泰平也上の恩徳を蒙り
奉行へ對し弓引んる上へ對し弓引
日同然不忠を以て申聞

◆松ヶ浦とは
焼ぬ
男業
は
一人者
は
の罪人
組して

小泉端次郎
奉行山城守

瀬田海之助
大塩平八郎


大塩平八郎
東府
両聖王と出
民と苦し
懐まろ
先の押京中侍
陣二陣三
陣

白井権尾
白四

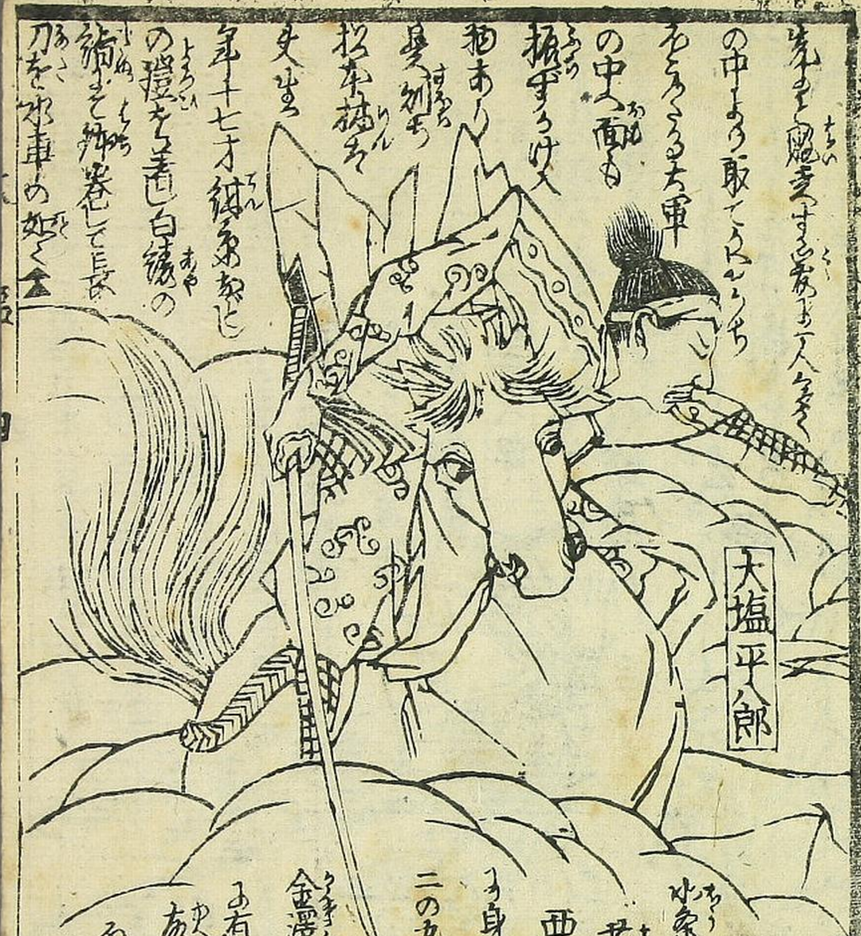
平八郎は敵の中多呂に一騎大槍をひらめかし打んと
立向ひ
左程に敵多く平八郎を見るまゝ
猛勇
山城の中多呂
左門
畑野秋之助
瀬田海之助

奉行山城守
平八郎

[illegible]

[illegible]

[illegible]


大塩平八郎

[illegible]

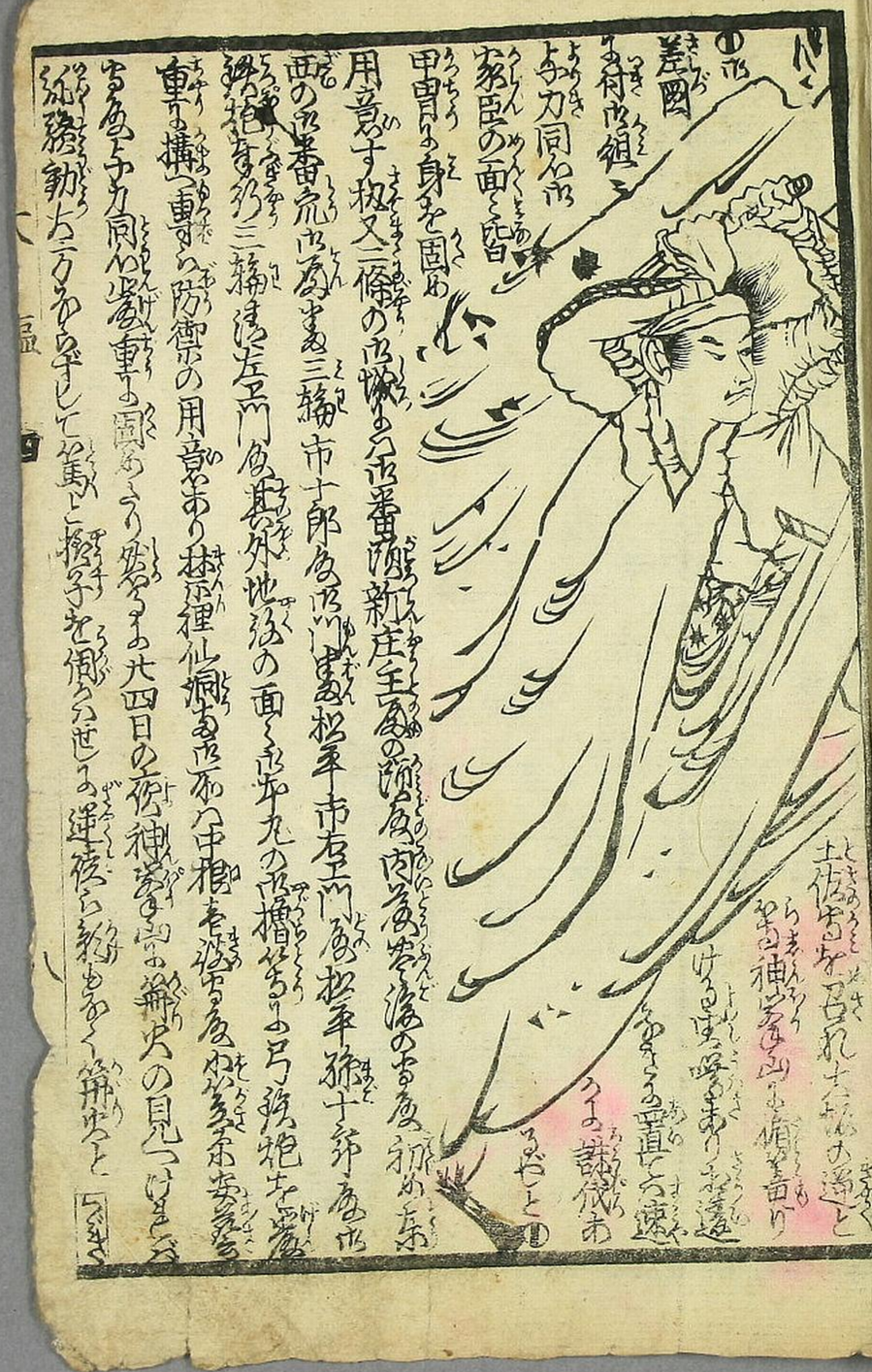
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



大塩格之助

差図

村内組

与力同心

家臣の面々

甲冑の身を固め

用意す扨又二條の内懸の内番頭新庄主馬の頭

西の内番元内藤三郎市十郎内川勇助松平市左衛門

松平孫十郎内藤

鉄砲を持三輪清左衛門内藤の外地役の面々

平九郎内藤

槍を持る内中根

重の構重の防禦の用意あり林屋理仙洞

内藤内蔵重の面々

内同心蔵重の面々

内藤内四日の夜神宮の山の麓火の見つけ

鳴物

土佐守を呼れ土佐の通と

神宮の山の麓より

呼まりて遠

内の詰代あ

るべと

合羽ひ男ひけり同廿日の夜火ともる

駿河町の其身金縁のまらぶれ

ぶ敷布の手きびをあひ今

ちらうと男ひしゝ上りしる

第くの中飛今くらまり

ふりて死生をうける大塩平

八郎の僧とあり

死ぬを引出焼き

まして其人数をもつぶれども

い八郎八中ゑあり此僧八

山ゑふれがんくゝ

大塩格之助

又其家老

大鑑勇とも

す使司代伊豆の守殿

町奉行佐橋長門守殿

鳴物

土佐守を呼れ土佐の通と

神宮の山の麓より

呼まりて遠

内の詰代あ

るべと

つぎ手の和六らの山寺の焼亡世

十 嘉永上巻の中ら略れ巻あり

田舎より江戸へのぼる組兵力内山彦左衛門

差添の婦人壺口けを見る三六平八

忍び宮

用を弁ずと八ツ時の

薬をうを切傷の

用を